

第 1 回次世代育成協議会第三部会（地域・環境）概要

平成 17 年 8 月 31 日（水）午後 2 時より

区役所本庁舎 6 階 第三委員会室

出席者 福富護、鈴鹿美佐子、玉盛正陽、田中稔、渡辺芳子、田谷節子、飯島泰文、
新倉康夫、吉田哲也、青木俊明、戸塚警察署長代理 生活安全課長代理 山形哲、
四谷警察署長代理 生活安全課長 山口晃弘、新宿消防署長 伊藤省二

1 開 会 福祉部子ども家庭課長

2 あいさつ 福祉部長あいさつ

3 部会設置の報告 部会長 福富護

4 議 事

(1) 次世代育成をめぐる現状について

ア 報告事項

(ア) 部会の所管事項について 子ども家庭課長説明

(イ) 重点項目への取組み状況について

・地域との協働で進める次世代育成支援（四谷地域の取組み状況）

四谷特別出張所長 説明

子ども安全ネットワーク 育成会主体 町連もかかわる。

安全マップ作成 ピーポ 110 番の家を表示

(ウ) 平成 17 年度第 1 回新宿区区政モニターアンケート《速報版》集計結果について（資料 1）

(エ) 平成 17 年度第 2 回新宿区区政モニター会議（テーマ「子育てをみんなで応援するまちづくり」）で出された意見・要望について（資料 2）

イ 質 疑

委員...モニターの意見等を聞くと区に対する要望が多く自分達がどうしたら良いかという視点が少ない。

事務局...モニター会議は区に対する要望を聞くというかたちになっているので、そのような点が目立つのかもしれない。

(2) 次世代育成支援推進にあたっての課題について

ア 課題の抽出

(ア) 委員から出された課題について（資料 3）

委員...安心して子育てのできる環境作りの一環として、通りで見かける子どもたちがどこの子だか分からず、また、親も私たちがどこの家の人だか分からない状況があるが、顔と名前が分かるようなコミュニケーションが必要。「地域見守り隊」を作り地域で子どもたちを見守る。

委員...各青少年団体に所属している子どもたちは、子どもたちのことをある程度把握できるが、地域の活動に入って来ない人達の子どもは把握しにくい。どうしたらその子達を見守ることができるか。お祭やラジオ体操など、特別に行事に参加させるのではなく、見守りできれば良い。親の問題もある。問題意識のない親を何とか啓発していきたい。行事を継続的に行き若い人達の参加を増やしていく。

委員...保護者（若い世代）の認識度が低く何をやっても参加しない。PTAなどでは無関心層の保護者をどう拾っていくかが課題。若い世代の保護者はいろいろなことをやってこない。絞り込むとすれば、子どもが乳幼児期にある保護者に目を向ける。2、3歳の子どもに対する親の関心度は非常に高い。一番関心が高い人たちに働きかける。そして、育成会、町会等への参加を促す。

委員...町会や育成会の関わりが地域と子ども（親）の地域力をアップさせることになる。また、各団体との連携が必要。

委員...大勢の人が関わる機会が少ない。お互いの活動を尊重することが必要。何かやって欲しいと思っている人が多く、自分達がやる方には回らない。子どもが乳幼児の時から育成会活動に参加して欲しい。現役の保護者が一番子ども達の顔を知っている。幼児・児童保護者と青少年育成会の横の連絡が必要。低年齢層の保護者の段階から勉強会等を開催し意見交換の場をつくる。おとうさん、おかあさんが、子育てに対しての思いを共有する機会を提供したい。子育て掲示板を作り情報を流す。このことにより、大勢の人が関われる。見守りについては、高齢者クラブでも実施しており、高齢者が高齢者を見守る仕組みをつくっているが、子育て支援については、見守られるよりどこかに居場所がある方が良い。

委員...育成会の行事は小中学生を対象にしたものが多く、事業を計画する大人の感覚と大きなギャップがある。中学生に企画をまかせることが大事。高校・大学生（シニアリーダー）を入れるのも良い。異世代交流をどのように行うか。小学生以下の子を育成会としてどうしていくかも問題である。小・中・高・大学生からやがて親へとパイプを切らないようにすることが大切となる。

委員...放置自転車問題などのハード面についての対応がとても必要だが、出産まで不安だという若い母親に地域力で相談にのれるような、見守りの体制

作りなどのソフト面についての環境づくりも重要。

(イ) その他の課題について

委員...教育の原点ともいえる「家庭教育」が必要。指導者である「親の教育」を行う必要がある。

警察署...非行は家庭に問題が多く、学校で兆候がでてくるので注意が必要。また、犯罪情報をリアルタイムで発信している。無関心層にどう発信するかが問題。身近な犯罪情報を知ることにより意識を新たにしてもらう。

警察署...犯罪情報については危機管理室を通し一斉発信している。発信の仕方、個人情報流出、不安感をあおることもあるため、不安感を与えるものにならないようにしている。地域の方の不安感が取れるまで一緒にパトロールを行ったりもしている。子どもの遊び場の公園を作っても、夜は危険な場所となる。バリアフリーにしても放置自転車を置く場所がない等の問題もある。子どもがお年寄りの面倒を見る（例えばお年寄りの家の電球を子どもが取替えに行くなど）「イエローフラッグ作戦」を行っている。

消防署...皆顔見知りで親以外にも悪いことをすると叱られる環境があると犯罪は少ない。放火犯にアンケートをした結果、地域でごみ出しの時間が決まっていたり、声かけがあったり、地域の目があるところは放火が少ない。地域の見守りは抑止力になっている。また、学校で消防訓練を実施しているが、子どもへの教育が親への教育にもつながっている。

部会長...今日の課題を整理すると

育成活動をもっと活性化するにはどうしたらよいか。

子どもを地域でどう支援するか。(子どもの居場所、地域の活動と保育、
ゆったりーの、異世代見守り)

ハード面の安全な環境づくり (放置自転車)

ソフト面の環境づくり (見守り隊)

異世代とのふれあいをどう保障するか。(高齢者・シニアリーダー・
区内にある高校生や大学生と小学生や乳幼児の交流)

(ウ) 課題の絞込みについて

部会長と事務局である程度詰めて提示する。